

第 46 回日本中毒学会総会・学術集会開催にあたって  
開催のご挨拶

第 46 回日本中毒学会総会・学術集会 大会長  
神戸市立医療センター中央市民病院 救命救急センター長  
有吉孝一

思い付きのことを英知と言う。<sup>1)</sup>

実は、今回のテーマ「**Ready for Break?**」は心電図波形を見ていて思いついた。**Torsades de pointes** (多型性心室頻拍) と発音 というかイントネーションが似ていたのである。後付けで、働き方改革元年にちなみ、本学術集会を精一杯休みながら楽しんでもらいたいという願いを込めた。

主要セッションもすぐ閃いた。1, 自殺予防 2, 病院前救護・災害 3, 小児 4, 拮抗剤・分析 5, ER 6, 自然毒・抗毒素血清 7, ICU 8, 法医学 ~と中毒の 8つのプログラムと基調講演には絶対の自信を持っている。厳選したプランナーと各演者の先生方には無償で英知を与えていただき、厚くお礼申し上げます。

「オータニさんが、間違って振り込んでくれないかなあ」<sup>2)</sup>

何度も思った。円安と不況も相まってのことだが、企業にとって本学術集会は費用対効果が良いものではない。断腸の思いで、一般演題をすべてポスター発表とし、会場費を削減した。懇親会は早々にあきらめた。その代わり、ポスター自由討論(初日 7 月 24 日(水) 17:00~18:00)の際、飲み物とオードブルを無料で振舞います。三宮や新開地に消える前に全員でご参加ください。

事前参加登録システムとオンデマンド配信も費用が掛かるため、用意していない。一期一会である。令和には珍しいアナログな学術集会だが、その代わり参加費は 10,000 円(非会員 12,000 円)と平成初期の学会並みに抑えた。救急科領域講習 4つとクリニカルトキシコロジスト認定 2つ、更新 3つ等があるので費用対効果は優れている。

なによりも参加者、発表者の皆様に笑顔で充実した時間をすごしていただけたのが最高の費用対効果である。主催者としてこれに勝る喜びはない。

弁当よりも感動を。キャッシュよりも拍手、五千円よりもご声援、現実の札束よりも心に花束<sup>3)</sup>を持ってお帰り下さい。

1) 立川談志(1936~2011)

2) 2024 年 4 月 大リーガーの通訳が違法賭博の関係者に 24 億円以上を雇い主の口座から不正送金した詐欺事件を起こした。

3) 桂 勢朝のまくらを一部改変。